

令和2年度最後の授業、節目節目で感謝を



いよいよ明日が、令和2年度修了式です。明日は、修了式と美化作業そして学活という時間割なので、教科の授業は今日が最後となりました。

2年生は、最後の保健体育でダンスの発表会で締めくくりました。先週から、各教科で今年度の最終授業を迎えたクラスでは、各教科担当の先生方に、生徒たち全員から1年間の指導への感謝のメッセージが送られていました。素敵ですね。

さて、土曜日の夕方にもまた地震がありました。「まさか、また？」という不安が頭をよぎりましたが、幸い今回は、前回固定部分が緩んでいたトイレ天井の換気扇の取り付け箇所が破損した程度で、臨時休業となるような被害はなかったため、ほっと胸を撫で下ろしました。

今年度1年を振り返ると、こうしてみんなが健康で、かつ安全な環境の中で日常の授業ができること、実は「当たり前」ではないということを何度も感じた1年間だったように思います。

ところで、「当たり前」の対義語はなんだと思いますか？ ネットで検索してみたら、『当たり前』の対義語は『感謝』と説明しているサイトにたどり着きました。「えっ？」と思い、じっくり読んでみるとこんなことが書いてありました。

家族がいること・毎日食事が食べられること・仕事があること・学校に通えること・家で布団の中で眠れること・・・それはすべて「当たり前」のことではない。

「当たり前」とは「あることが常のもの」、その反対は「あることが難しいもの」＝「有り難いもの」→「ありがたい」こと なのだそうです。

「ありがとう」という言葉は、言った方も言われた方も気持ちが前向きになる魔法の言葉です。日々こうして、学校で学べること、生徒も先生も保護者も笑顔で過ごせることは、実は有り難いことだと言うことを、今年1

年、コロナや地震、気象災害等を経験して十分に理解できているはずなのですが、つい忘れがちになってしまう自分たちがいることも事実です。

1年の終わりという節目で、お互いに「感謝」の気持ちを伝え合うことで、「当たり前」の日常が、いかに有り難いことかをしっかりとかみしめて、1年を締めくくりたいと思います。保護者の皆様、1年間の本校へのご理解・ご協力、ありがとうございました。

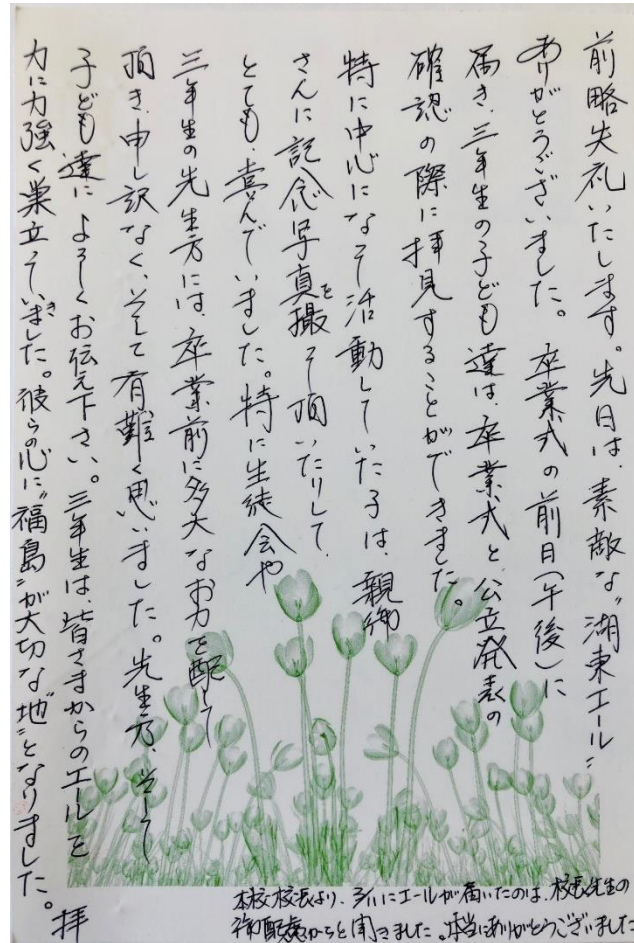
湖東中学校の高木先生から、お手紙届きました

熊本市立湖東中学校からの地震被害への応援メッセージにこたえ、卒業生と生徒会で、お礼と熊本への応援、そして自分たちは大丈夫というメッセージを作成し、送ったことは学校だより90号でお知らせしました。

その思いに対して、湖東中学校の3学年主任の高木先生から左のメッセージが先週、届きました。

湖東中も12日が卒業式で、その前日に到着し、中心となった3年生はとても喜んでいただけ、そして、生徒の心に”福島“が大切な”地“となったとありました。

”熊本“を私たちにとても大切な地としていくことで、未来に向け、人の心の



の痛みがわかり、手を差し伸べることができる人でありたいですね。